

北海道における縄文世界遺産の拠点機能のあり方に関する懇談会 第 4 回会合 議事概要

- 1 日 時 令和 4 年 1 1 月 1 8 日 (金) 9 : 5 5 ~ 1 2 : 0 5
- 2 場 所 道庁本庁舎 1 3 階 (塔屋) 環境生活部 1 号会議室
- 3 出席者 (構成員) 阿部 千春氏 (道南歴史文化振興財団)
大津 和子氏 (北海道ユネスコ連絡協議会)
國木田 大氏 (北海道大学大学院)
渋谷 和憲氏 ((公社)北海道観光振興機構)
森 朋子氏 (札幌市立大学)
(道 側) 塚田文化局長、家山室長、寒河江主幹、児玉係長
依田専門主任、梅田主事
- 4 議題
 - (1) 第 3 回会合のまとめについて
 - (2) 北海道における縄文世界遺産の拠点機能のあり方について
- 5 概要

8 月開催の第 3 回会合のまとめを行うとともに、北海道における縄文世界遺産の拠点機能のあり方について検討を行った。
- 6 主な意見
 - 第 3 回会合のまとめについて
構成員の発言なし
 - 北海道における縄文世界遺産の拠点機能のあり方について
 - 第 1 章～第 4 章について
 - (大津) 文言について。道民が読んで理解することを念頭において、1 ページ 1 策定の趣旨の一番最後の行にある「専門的見地からの意見を取りまとめ、道としての考え方を整理したもの」とあるが、これでは、取りまとめたことと、整理したことの過程がわかりづらいため、「専門的見地からの意見を取りまとめ、それをもとに道としての考え方を示したもの」とした方が良い。
 - (大津) 2 の図の上、北海道総合計画などは鉤括弧をつけた方が良い。
 - (大津) 3 ページ第 2 章 1 縄文文化の概要 5 行目に「定住が開始する」とあるが、「定住が開始される」の方が良い。また、次の行、その定住は「採集・漁労・狩猟」など「自然との共生によって実現させ」の方が良い。農耕も自然の恵みであり、ここは対比させる文章となるので、この表現が良い。
 - (大津) 囲みの一番下。「争いもなく」は書き言葉としては「も」はない方が違和感が少ないと考える。
 - (大津) 4 ページ最後の行にある「地域文化圏の中から価値の説明に」の「価値」がわかりづらい。「普遍的価値 OUV」のことか。
 - (阿部) OUV のこと。
 - (大津) 抽象的すぎるので、わかりやすく書いてほしい。
5 ページ、枠下部分「定住生活 = 農耕文化」であり、というより「定住生活 = 農耕文化」とされていましたが、ではないか。
 - (阿部) 5 ページの同じ文章で、「大きく覆すことになったのです」は「大きく覆すことになりました」の方が良い。

3ページのご指摘だが、この部分は2つの対比になっている。一つは「狩猟・採集」と「農耕・牧畜」。もう一つは「自然の恵み」と「自然の開拓」。周辺の自然の恵みとするのはどうか。自然を開発しコントロールすることと、周辺の自然の恵みを活用することが区別できるように。

- (大津) 開拓する自然の恵みではないということがわかれば良い。
- (阿部) 8ページの図 新幹線と在来線、高速道路を分かりやすい図に差し替えた方が良い。拠点をどこにするかは、交通網が非常に大事。
- (森) 大きな枠組みの話となるが、表紙に「北の縄文」ロゴマークが出てきたのは驚き。今回の拠点機能のあり方の位置づけ。世界遺産の話はどう関連づけているのかがわかりづらい。北海道にあるものだけなのであれば、ロゴをつけるのはどうなのか。最初に世界遺産、次に北海道全体だと思っていたので、もう一度立ち位置を共有したい。
- (塚田) 基本的には北海道の世界遺産。
- (森) 北海道としては世界遺産だけで終わらせることはなく、北海道全体にというのはわかるが、タイトルが世界遺産なので、整理する必要がある。世界遺産のロゴマークもあるので、北海道だけ勝手にやっているとわかってしまう。もう少し広げたいという意思表示をしておけば良い話だと思う。本来であれば世界遺産だけの話で閉じるべきだが、広げるのであれば、意識的に書いておくべき。
- (阿部) この拠点機能のあり方は世界遺産に限定。北海道全体の縄文は視野に入れるが、実際の活用は別ステージ。
- (森) それであれば、ロゴマークは世界遺産のものが良い。
- (大津) 世界遺産のロゴを大きく、北海道のロゴは小さくおまけにするのが良い。
- (塚田) 世界遺産のまとめではあるが、北海道としては、北海道全体のことも考えていると書いた方が良い。2ページに拠点機能の範囲とある。
- (森) 全体の世界遺産の会議で出すと、拡大解釈しているととられる。また、北海道全体と書いている割に、内容は世界遺産のことばかり。
- (大津) 目次をみると、第1章には「策定の趣旨」、第3章は「締約国の責務」と書いてあり、何の策定なのか私たちにはわかるが、きちんと書いた方が良い。締約国についても、「世界遺産条約締約国」ときちんと書いた方が良い。「拠点機能のあり方」というのはお役所言葉。より分かりやすく、何を書いているのかわかるようなタイトルにするべき。「策定」も「拠点機能のあり方」も力チカチのお役所言葉。親しみやすい言葉はないのか。その方が、趣旨と位置づけがすっきりすると思う。
- (阿部) 4ページの図のタイトル 地域文化圏の形成が縄文文化圏のあり方。矢印でわかるか？
- (國木田) 矢印だけだとわかりづらい。
- (大津) 同じレベルの言葉じゃないとわからない。
- (阿部) 「地域文化圏の集合体が縄文文化圏の総体」という意味が伝わるようにしたい。
- (國木田) 一般のものにしては難易度が高い。
- (阿部) 文章では少し書いているが。
- (國木田) そうですね。
- (阿部) 単純に「地域文化圏と縄文文化」のほうがわかりやすいか。
- (國木田) そうですね。
- (渋谷) ここで強調したいのは、困っているところですよ。ロゴマークのところは、結論は出ていないということか。
- (塚田) 世界遺産の拠点ではあるが、北海道全体を意識しているということなので世界遺産のロゴはいれるべきと考える。
- (渋谷) 「活用のあり方」には入っていないですよ。
- (塚田) そのとおり。
- (事務局) 併記か削除かのどちらかにする。

- (塚田) 併記したい。
- (森) それで良いと思う。
- (國木田) 遺物の写真があれば分かりやすい。動産は世界遺産ではないので、載せるとこれも世界遺産かと誤解されてしまうか。
- (阿部) 構成資産から出た遺物は使用できる。
- (國木田) 文字ばかりだと重い。
- (塚田) 場合によっては各地のキャラクターを入れるとか。
- (大津) 3章の文言。1、ユネスコ「では」推進している、となっているが、ユネスコ「は」推進しているの方がよい。国連機関は色々あり、その中でユネスコが中心的に推進している。また、持続可能な社会SDGsの説明について、「できることから行動する」は口語的表現すぎて違和感がある。「新たな価値観」についてもわかりづらく、「自分たちの問題として捉えることで新たな価値観を」、というのでは、「持続可能な」という言葉を説明するのはわかりにくい。例えば、「先ず自分たちの問題として捉え、今だけではなく未来にわたって、自分だけでなく全ての人々が安心して安全に暮らせる持続可能な社会を目指そうとする教育活動のこと」、持続可能な開発のための教育だと入れた方が良いと考える。「持続可能な」は、今だけでなく未来に渡って私たちの子孫に、今という時点をとれば、地球上の全ての人々が、ということ。「開発」という言葉をわかりやすくすると、安心して安全に暮らせる、ということ。
- (大津) 「1 ユネスコの理念」下から2行目「国際的な取組」が何を指しているのかわかりづらい。
- (阿部) ESDとSDGsのこと
- (大津) 今ではESDよりSDGsの方が認知度が高いので、「ESD/SDGs（持続可能な開発目標）の実現に貢献する」とするか。抽象的な「国際的取組」より良い。
- (阿部) 「持続可能な教育活動」と鉤括弧を入れた方が良い。貢献すること「も」ではなく、貢献すること「が」、に直したほうが良い。
- (大津) 13ページ以降。機能を実現するための手法の一例、体現止めにするのか、バラバラなので、文体を統一した方が良い。手法だけを見ていくと違和感がある。
- (阿部) 体言止めに統一して整理することが必要。
- (大津) 20ページ誘客機能の3番「B to B」などは日本語で注釈を入れた方が良い。
- (家山) 巻末に用語解説を掲載する。
- (大津) いちいち巻末をめくるのはどうか。いちいち解説があった方がリーダー（読み手）には良い。
- (國木田) 21ページのHTやATも業界用語なので解説が必要。
- (家山) 16ページに記載している。
- (大津) それぞれあった方が親切。忘れてしまうから。21ページ1番「1 マーケティング戦略の立案及びそのための情報収集」、観光立国～は鉤括弧。1ページ2番「2 「拠点機能のあり方」の位置づけ」には二重括弧がある。区別しているのか。
- (塚田) 混在している。
- (大津) 格付けがないのであれば統一した方が良い。
- (阿部) 25ページの2の中の下、「どのように位置づけ、景観形成をするか」は景観形成の方が大事なので、「、」を取って一文にする方が良い。
- (大津) 24ページ3の1行目。「インタープリテーション」は解説されているか。
- (塚田) 16ページにあるが、意味はつけていない。
- (大津) 意味をつけた方が良いと思う。
- (阿部) 「インタープリテーション」は良い日本語がなく、どうしてもカタカナになってしまう。
- (國木田) 難しいからカタカナ。
- (大津) 解説に書かれていたほうが親切。注釈でこういう意味を含みますというような

解説。

(家 山) 12ページと同様に米印で注釈にしたいと思う。

(森) 2ページ。北海道の縄文の位置づけが大事。「活用」をとって、「北海道の縄文」全体を視野に入れた」にしてはどうか。

(塚 田) わかりました。

- 次回会合の開催日について
1月25日(水)午前10時~とする。